

姥捨て

△2△

奥野忠昭

犬童

徹

合わせたコップの音は淋しかつた。

〔乾杯〕

ぼくが言つた。泡を口いっぱいに入れた。ビールは苦かつたが、いつきに喉の奥へ流し込んだ。涼子もまた顔をしかめながら飲んだ。

陽の中からすぐに影に入つたため、玄関はしばらく開の中だった。その中で涼子の大きな眼だけが宙に浮いてこちらを見ていた。

「洋子さん、そんなにきれいだったら、なぜわたしなんかを好きになつた」

「大きな声を出すな。息子に聞こえるじゃないか」

「わたし、孝ちゃんやおかあさんに氣を使つていじいじ暮しはしないわよ。不美人で氣の強い女よ。いやだつたら別れてあげるわ。洋子さんと別れなかつたらよかつた、そうおっしゃい。ね、そうおっしゃい。このうそつき、自分にも他人にもうそばつかりついて生きている。うそつき野郎」

「わかっている。わかっている」

ぼくは涼子の肩を抱いて、応接間へ連れていった。そこには母も息子もいなかつた。ぼくはふううと息を吐いた。息まで力がなかつた。

「新しいホームの出発のため乾杯」

涼子もしかたなく、コップをあげた。

「うそをついて逃げるようなことはやめな」

部屋には広いガラス障子から陽が入り、こまごました家具の輪郭をいっそう鮮やかにした。コップの泡の中にまで小さな陽があつた。

「そうするよ」

「おばあちゃん、好きかい」

二階では母が息子の名を呼びながら手を取つていた。

「どうだい。この家、気にいっているのかい」

母は手を握るだけでなく、肩にまで手を載せながら息子の顔に近づいていた。膚と膚は数ミリしか離れてはいず、その間に濃密な言葉ではない言葉が流されていた。息子は最初、それをおっくうがついていたが甘い言葉が流れされ、にこやかな表情が彼の頬にひつきりなしに放たれると、彼の抵抗は徐々に犯され、時々、うれしそうな表情をした。

「おばあちゃんの手も握つてよ」

息子はマンガ本から目を離し、母を見た。

母は彼女のすべての力を一瞬に集中させ、軀全体を輝やかせた。母の顔から皺が消え、細い腕の動きが若やぎ、首筋まで乳色になった。艶っぽい膚は柔らかな息子の膚に近づき、その間に甘美さが波立つた。

「まるで恋人みたいね」

息子はおやつを口にほうり込み、マンガ本の方に目をやろうとしたが、母はそれを許さなかつた。

「おばあちゃん 好きかい」

息子は食べかけたお菓子を途中でやめ、肩を極端に縮め、とまどつていた。

母は息子をじっと見つめ、それから笑つた。ぼくはその中に怖ろしさを読みとつた。首筋に寒イボがたつた。その場所を離れたかった。だが、その前に記憶の襞に隠されていた光景が思い浮かんでしまつた。二十年以上も前の出来事が鮮明に形を造つてしまつた。

あのとき母は今まで聞いたことのない歎じみの声を胸の奥底から出した。

「どうした」

寝ている母の近くへひざまずいた。寝起きは腰ひものところで重なり、あとははだけていた。乳房は心臓の鼓動とともに揺れ、それは大地の中に埋もれているものが蠢めいるようだつた。

「注射のせいだ。あのやぶ医者め」

ぼくはまだ若い医師が母の胸を開き、聴診器をあてた光景を思い出した。母の胸は夏の海のように輝き、たゆたつていた。その上に置かれた医器が長い蛇に見えた。ぼくは性器が充血するのを覚え、あわてて母の見えない部屋に隠れた。

「閉経期に起ころんですよ。とくに若い人は」

ぼくは耳をそばだてていた。ざわめきが嵐のように襲つてきた。

医師の注射箱を開く音がした。銀色の金属の箱が浮かんだ。注射器がメスに見え、それが母の腕にさされ、そこからも血が流れた。

「使わないものははやくさびちやいますよね」

母は淋しく笑つた。

「まじめに生きてこられたんですね」

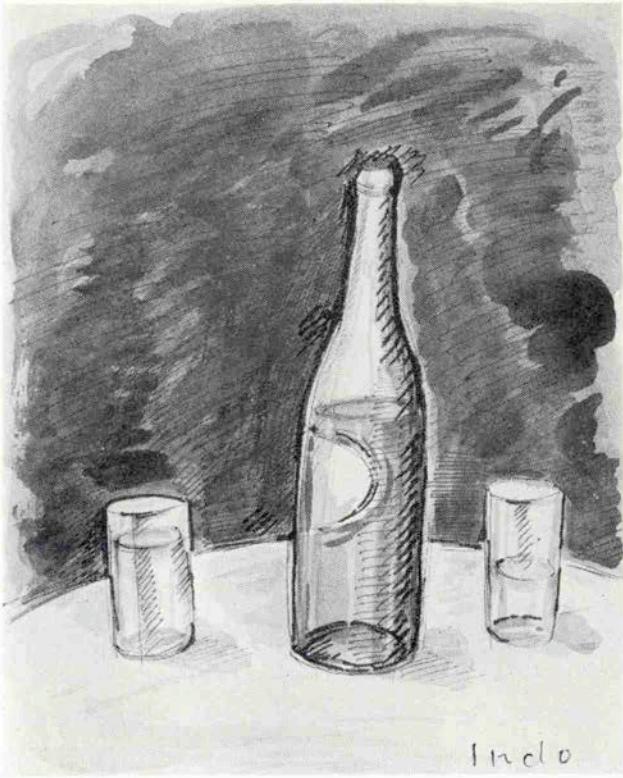
医師が言つた。

「ええ、あの子だけを頼りにね」

医師が帰つたがぼくは見送らなかつた。

「ちょっとさわってみ」

母は浴衣の皺のいつた悔をいつそうはだけた。



大きな乳房は崩れずに丸まっていた。乳首の褐色は落とされた絵具のように滑らかな膚に浸み込んでいる。

確かに心臓の鼓動が乳房にまで伝わっている。紅色の突起が小さく規則的に揺れた。ぼくはその上に掌を置いた。突起の先から頭の芯まで直結する神経があった。頭は小さな棘が刺つたふうだった。

「あの注射打つたらへんな気持ちになる」

母はまた息だけの声を吐いた。

「そんなとこやつたらわからへん」

ぼくの手は心臓の鼓動のもとも激しく聞こえるところを捲して這つた。膚の温みが、柔らかく伝わった。掌が止まるところやない、そこやないと言つた。それからかすかな息だけの声を何度も吐いた。

「あの注射打つたら、ほんまに変な気持ちになる。ほんまに変な」

母の声はどこか別の世界から来るようだつた。ぼくの感じられない、まったく別の世界。ぼくも、その世界へ引き込まれていくような気がして怖ろしくなつた。ぼくの心臓まで母と同じように打ちだした。

ぼくはできるだけ大きく掌を抜け、思いつきり乳房を握つた。まるで乳房の中に心臓があるように。

「どうや速いやろ」

ぼくは首をふつた。母は笑つた。笑いの中からあの声が聞こえた。ぼくはあわてて手を引つこめた。そのとき膚に爪をひつかけ、乳房を裂くようなひとすじの血が滲んだ。母はぼくを見つめながら笑い続けていた。

ぼくは息子のそばへ行つて肩をたたいた。息子はぼくを見上げ、きまりわるそうにした。マンガ本を持ちながら立ちあがつた。母が手を離すと、ふうつと鼻から大きな息を出し、片手を軽く胸にあてた。息子もぼくのよう

に心臓が速く打ちだしたのにちがいない。

「さあ、これ、二階へ持つて行ってくれない」

ぼくは母の近くにあった包みを指さした。息子はそれ

に手をかけようとした。

「ああ、これ、ここへ置いといて」

母は両手をついて、それを胸の中に入れた。

「ね、それ、何入ってるの」

息子が言つた。母が風呂敷をといた。中から父の位碑と古ぼけた写真が一枚出てきた。位碑は黄金色でところどころはげていた。母は坐り直し、それを胸に抱いた。誰かそれをねらうものから必死に守ろうとしているふうだつた。

「一階の本棚の上に飾ろうと思って」

「いいえ、わたしがちゃんとお祭りしますよ」

「見せて、見せて」

息子は母の掌から写真をすばやくぬきとつた。母は息子をきつと睨んだ。

「これおじいちゃん」

「ずっと、棚の上に飾つてあつただろう」

「へえ、これおじいちゃんか」

「さあ、返して」

母は写真の先を持って、引きぬこうとしたが、息子は指でしっかりと押えた。息子はめずらしい動物でも見るよう、眼を大きく開いたり縮めたりした。母の顔が曇り、また手を出して写真に手をかけた。手が震えていたがそれは怒りのためだろう。なんてことをするんだろう、この子は、母はそう思つてゐるに違ひない。

「さあ、はやく返して」

息子はなおも見続けていた。母は軽く揺らし、残されたわずかばかりの力を一点に集め、それを奪い返す準備を始めたようだつた。おまえたちに汚されてはたまらない。母の血の氣のない膚が最期の声をふりしぼつていふうだつた。

「年とつてるね」

「ぼくより3つも年が若いときのだよ」

母の手に力が入つた。写真を引きぬこうとした。だが

のひさしで影になり、淋しそうに足を組んで坐つていた。何か思い悩んでいるよう、たよりない孤独な匂いが躯全体から滲み出している。

「まるで五十に見えないか」

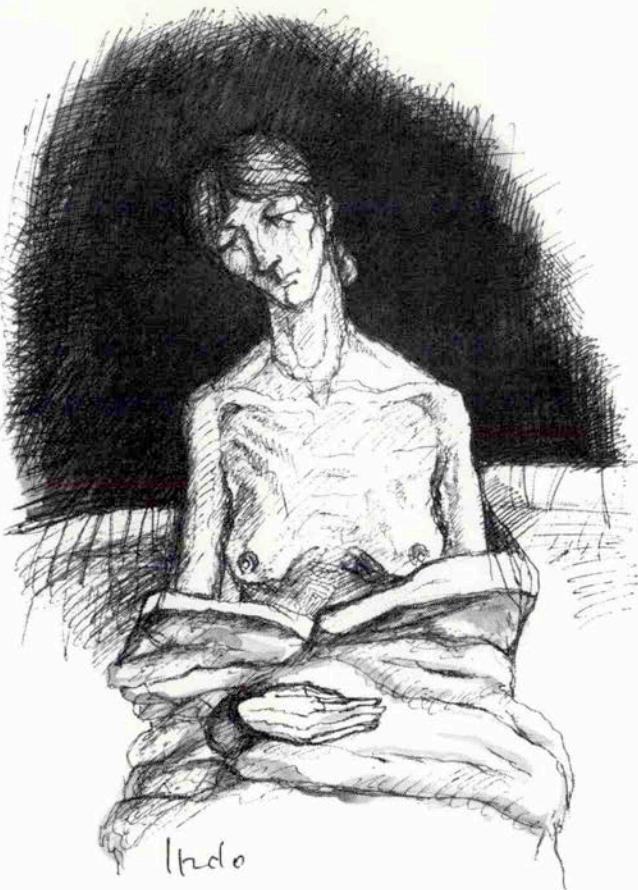
そばに立つている涼子に見せたが、彼女はちらりと目を流しただけで、すぐに返してよこした。

Indo

「返して、さあ」
母が言つた。
「返してあげなさい」

涼子が言つた。

息子の力の方がまさつていた。写真は真中で苦しい音をたてた。
「苦労したからだよ」
母が言つた。
「孝のおとうさん、軀が弱くてね、お金をうんと使つたんだよ。働きすぎて死んだんだよきっと」
「おとうさん、軀、弱かったの」
「そららしいな」
「おとうさんが殺したみたいなものさ」
「そんなこと言わないでくださいよ」
ぼくは息子から写真を取りあげた。よれよれの背広を着、山の中で疲れたように坐つていた。色のない写真なのに、薄くよどんだ頬が想像できた。細長い顔は戦闘帽



ぼくは父の墓石に水をかけた記憶を思い出した。蟬のなき声の激しい中で、何も考えないで水をかけた。夏の中でも墓石はまわりの緑を映して、熱い湯気を送り返した。それが父との唯一の記憶だった。あとは何もない、

実体のない観念だけだ。

「さあ」

母がまた言った。ぼくは写真を手わたした。母は位碑と写真を胸に抱えて、下へ降りていった。しばらくして、母の念佛の声が聞こえた。今、母の中に父の実体が蘇っている。父の色々な顔付がある。父のさまざまな仕草がある。それが羨やましく思えた。

ぼくは息子のことを考えた。息子も10才のときから洋子の実体が消える。彼の中に母の空洞ができる。洋子の連續に涼子をとらえ、母を考えることができるだろうか、それともぼくと同じようにそれは空洞のまま残り続けるのだろうか。それは残酷なことだ。自分がそれをいちばんよく知っている。だが、その残酷なことをやらねばならない。ぼくがこの世界で生き続けるために。

「ずいぶんあの写真に未練がありそうじゃない」

「不思議なんだ。むこうの家では気にかかるなかつたのに」

「あなたは過去をなかなか棄てられないのよ、欲深いのかしら」

「あれ、この家に置いたかったんだが」

「あれだけしか、もうおかかるにはないのよ。あげなさい」

息子は再びマンガ本を読み出し、ぼくと涼子はゆっくり階段を下りた。

母は玄関へ行つて包みを持ってきて、それをあけた。中からいろいろな野菜がでてきた。野菜は青々としていた。細長いキュウリの横になすが恋人のようにくつついていて、そのまわりを柔らかな葉が包んでいた。

数年前から、母は野菜作りにせいを出した。数平方メートルにもみたない小さな庭をみんなの畑に変えてしまつた。こちらへ引っ越すとき、みんなつぶしてきたが、土の中にはまだ植えたばかりの種もあった。

土をなめるようにして世話をしていた母を思い浮かべた。これから母は何に時間をついやすのだろうかと思つた。これから母は何に時間をつけたのだろうかと思つた。

た。

「おじょうずですね、おかあさん」

母は初めて涼子を見すぐ見て微笑んだ。

「百姓をしたいんだって」

「作るところがなくなつてがつかりでしょう」

母の微笑が消えた。灰色の幕が薄く顔を被つた。おまえがそうさしたのにといわんばかりの視線を涼子に送つた。

「しかたない、こんなことになつたからね」

「あの家に住んであげたら」

涼子が言つた。

「君もくるかい」

ぼくが言つた。

「やめさせてもらうわ」

涼子が言つた。母は笑つた。怒りも諦らめもすべて混じりあつた笑いだつた。

「これ、いただけるのかしら」

「この子が、これがすきでね」

母は野菜を指さした。

「うすく切つバターライタメをすると喜びますから」

涼子はふくろごとそれを台所へ運んで行つた。ぼくも少し残されたものを運んで台所へ行つた。涼子はぼくの耳元へ口を寄せ、バターライタメは絶対つくらないからねと言つた。あなた再生するつもりなんでしょうね。だつたら過去を洗い流さなきやだめよとつけ加えた。

涼子が階段を上つて行く音がしたがすぐに降りてきてぼくたちのそばに立つた。

「ね、これどこへ飾つておこうか」

洋子の写真を突き出した。赤いスカートをはき、その横で涼子が笑つている写真だつた。

「どうした」

ぼくの声はうわずつた。すぐ横の涼子を見やつた。涼子の眼珠はまつたく動かず、写真の上にくぎづけになつた、頬は反対にひくひく動いた。

(つづく)

明日のKOBEを創る 130人のリーダーが情熱をこめて語る

FASHION OF KOBE

神戸ファッション都市論

自己主張のある余暇とファッション文化

神戸のモダンライフの流れを探る

ファッション都市は日常生活の集積から

スポーツライフがファッションをリードする

ファッション文化に不可欠な創造性

住むのに最高の町、日本の外国、神戸

神戸文化の背景は国際的モダニズム

ファッション都市づくりの核にメッセ(見本市都市)の設置を

ファッション都市はショピングエリアから

ファッション都市の舞台装置を創る神戸の家具

洋菓子こそ神戸文化のパロメーター

全国の80%を集散する神戸の真珠業界

ファッションは生活のゆとりのなかから生まれる

トータルファッションのなかの神戸シユーズ

百年の伝統と世界的技術を誇る神戸の洋服

神戸の生活文化を培うデパートメントストア

ファッションナブルな神戸の魅力をつくる北野町界隈

世界的な水準を誇る神戸の味覚文化

長期ビジョンをもつたファッション都市づくりを

ファッション都市に必要な空港とホテルと見本市会場

ファッション情報センターの設置が急務

ファッション都市を創る人材を養成する

豊かな文化が経済活動のエネルギー源となる

既成市街地の整備と未来の海上都市の建設

あすの神戸、国際情報文化都市の創造を目指して

編集 / 月刊「神戸っ子」

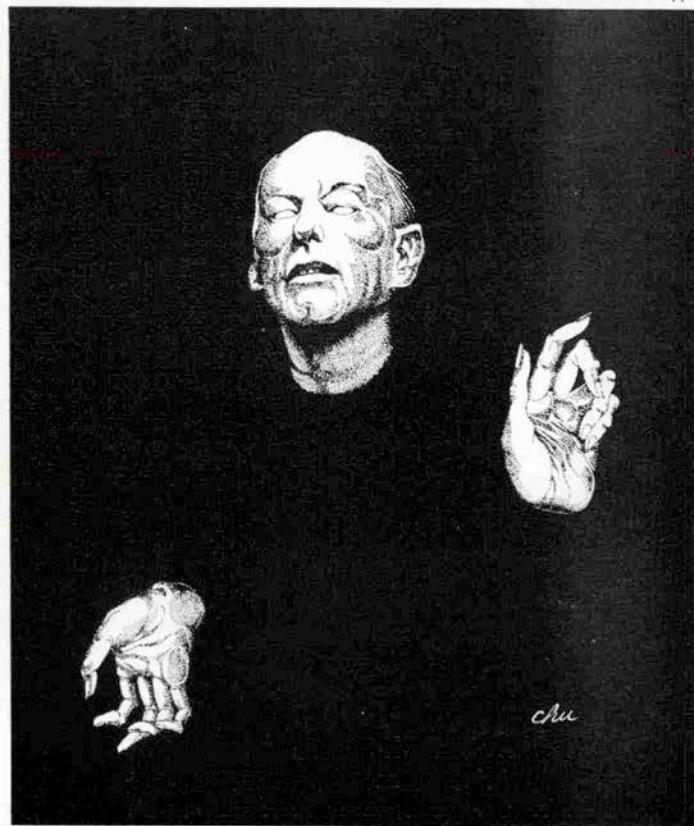
発行 / コミュニティサービス株式会社

(〒650)神戸市生田区東町113-1大神ビル7F TEL.078-331-2246

お待たせいたしました
市内各書店にて発売中!
KOBE MOOKS No.1
定価 1,200円
(送料 200円)
A4版 220頁

吉峰 正人 絵・榎 忠

△2▽



ような気になつてくる。

「止まれ！」バスの声。まわりの動きがその声によってピタリと止まる。気配が動かなければぼくも動けない。耳と鼻に緊張の糸を張る。何がはじまるのか？

車のエンジン音が聞こえる。近づいてくる。静寂の中でそれは場違いな感じで響きわたっている。ガソリンの臭いがする。ぼくのすぐ近くでドアが開く。

「早くしろ！」ふたたびバスの声。彼はいつも命令調に、怒ったよう言う。バスだからそんな口調になるのか、ぼくに関わっているこのような状態がそうさせるのか。奇妙なことに、その声を聞くとこちらまでビリビリとする。早くしろと言われたらそうしなければならない

ふと、まわりの動きの中に犯罪の匂いを嗅ぐ。営利誘拐？それしか考えられない。そう考えていくとある程度この状態も納得できる。しかし、ぼくをさらってどれほど利益があるというのか。ぼくに特別の知識はあるわけでもない。ぼくの知らない大金を妻は隠し持っているのか。バスの声に促がされ誰かが背中をつく。乗り込むより仕方がない。

ドアが閉まる。急発進で車は動く。スピードがあがる。目かくしされているのでスピード感はそれほどではないが、かなりの速度である。車体が揺れ、タイヤがたえず

きしんでいる。何をそんなにあわてているのか。タイヤと同じように、まわりの気配がいつまでも音をたててやめない。氣の毒なことだ。縛られたぼくよりも、縛った奴の方が落ちつけないでいる。どうなつてあるのか知らないが、ここまできたんだ、お互いそんなにあわてることはないよ、そう言ってやりたいが、残念なことにさるぐつわが邪魔をする。

目かくしもそのまま。両手も後ろで、腰のあたりで縛られたままだ。ロープの縫い目がこすれながら手首にくい込んでくる。誰も何もしないのに、徐々に締まつていく感じである。指先は痺れ、痛く冷たい。血が手首のところまで止まっている。流れる方向を探して、どくんどくんと音をたてている。そして、相変わらず両脇から誰かにかかえられている。

どうしたって逃げられないのに用心深い連中である。何故こうまでするのか。それほどまでして誘拐する価値がぼくにあるのか。誰も知らない化学記号を発見したわけでもなし、宝島の地図を持っているわけでもないのに。

価値?……逆かもしれない。無価値、害、罪……ふと、犯罪者という言葉が浮かぶ。こういう場合、あらゆることを想定しないと気がすまないようである。犯罪者とぼくが直結する。何か悪いことをしたのかもしれない。その罪を償いに連れて行かれようとしているのか。何をしたのか?先程のドスのきいた男の声がよみがえる。あんないい女を捨てて……バラバラにして溝へ捨てたのか?ぼくは殺人者か?

いつ?どこで? どうか!あの時か! それしか考えられない。とうとうやつてしまつたか。

あの時……時々、ぼくは人ごみの中で目まいがする。貧血性でもなく、体が悪いわけでもない。原因がわからぬと医者も首をかしげる。最近、その回数が多くなつているのが気にかかる。

目まいがはじまるときわりの人がキラキラとしてくるこの症状は他の人にもあるのだろうか。そのキラキラが

ナイフに見えてくるのはどうしてか。何本ものナイフがその先をぼくに向けて近づいてくる。ぼくは叫ばずにはいられない。“やめろ! それ以上近づくのはやめろ”しかし、ナイフの輪は徐々に縮まつてくる。ぼくに向かってくる。まっすぐ立ていられなくなり、その場にしゃがみ込む。頭をかかえ、眼を閉じる。だが、もう手遅れだ。すでに眼の中の全てがキラキラ。思わず落ちている石を握りしめる。

石を振りあげたところでは覚えている。が、いつもそのあとのことわざがわからない。知らないうちに、その二、三人を傷つけたのか。振り降ろした石の当たりどころが悪くて死んだ奴がいるのかもしれない。救急車のサイレンで自分をとり戻す。猛スピードで遠ざかって行くそれは、ぼくが負傷させた人たちを運んでいるのだろう。道行く人が立ち止まつてぼくを見ている。指さし、何かを囁きあつて。事件か?ぼくが起こしたのか? そうでもなければ人がわざわざ関心を寄せるはずはない。ぼくは立ちあがり、走りだす。

とうとうつかまつたのか。だとしたら、この先はわからりきつて。目かくしも後ろ手での腰縛もさるぐつわもうなづける。しかし、決して悪気はなかつたのだ。よく覚えていないのだ。犯罪は確かな自信と道義を持つた人間のやることである。ぼくは犯罪者としてのモラルに欠けているのではないか。

タイヤをきしませ車がカーブする。傾いたぼくの体を右脇につきそつている奴が支える。

「もう少し辛抱してくれ」声は左側から聞こえる。ボスのようである。耳元で言ひながらさるぐつわを解く。後頭部の結び目はほどけたが、口の中でそれはからみ、なかなか離れない。それはもう手拭というようなやさしい感じのものではない。重さと臭いを持った凶器である。唇と舌に吸いつき、歯に巻きついている。構わずボスは引つぱる。歯がぐらつき、舌がひっくり返る。口の中にドライアイスを直接押しつけられ、ピチャリとくつつい

たところを力任せに引きはがされた感じである。口の中のあらゆる表皮がめくれ、血が出ていたにちがいない。しかし、贅沢は言うまい。少々の血と引き替えてでもとりはずしてもらつた方がありがたい。

「悪く思わないでくれ。おれたちは頼まれただけのことなんだ。あんたに恨みはない」ボスは喋る。声がするたび、耳から頸にかけて熱い息がかかる。ボスの言葉に匂いがある。煙草のそれでもなく、整髪料でもない。まさか化粧をしているわけはあるまい。何の匂いかよくわからない。しかし、ぼくのふくらんだ鼻はボスのそれを敏感に感じとっている。他の何十万の人が息を吐きかけても、ぼくは迷わずボスを嗅ぎあてることができるだろう。

果して、妻のそれはどうだったのか。どうしても思いだすことができない。縛りあって暮らしたことがないからか。目がくしして抱いたことがないからか。盲人は自分の妻の匂いを知っているのだろうか。いや、妻だけではなく、家族も帰る家も全てを指先と鼻だけで見分けるのか。それでいて決してまちがわないので、知る方法がそれしかないからであろう。唯一であることがかえつて確かなものを作りあげているにちがいない。ぼくは妻を見分ける確実な方法を知らない。万一一、このまま両手の自由が奪われ、目かくしがはずされなかつたら、ぼくは永久に妻を捜しあてることができないかもしれない。

「大丈夫か？ 痛くないか？」言いながらボスは指の腹でぼくの唇を撫でる。女にしてもらうならともかくも、いかつい声をした男ではあまり気持ちのいいものではない。

首を振つて避ける。が、動ける範囲がしれている。拒みきる気力もない。ボスの指はそこから離れない。それどころか口の中まで入つてくる。いささか異常を感じる。指は舌をつまんでいる。噛み切つてやろうかと思う。が、いざとなるとそういう行為は起こしにくいものである。そういう行動は瞬間のものであつて、考へているうちはできない。思うに、ぼく自身、まだはつきりした状態が

つかめていないようである。何かのまちがいだ、そんな気分が勝っている。地震が起るぞと予知されても揺れてみなければわからないように。この先どんな危険が待つているのか実感としてこない。

「ほんとうはこんな方法をとりたくなかった。できることなら穏便にすませたかった。しかし、どんなに話しても、おそらくあんたはわかつてくれなかつただろう。だからこんなことになつてしまつた。あんたがいけないのだ」ボスは喋りつづける。つかまえてしまつたことで安心したのか、それともぼくに特別の親しみを感じるのか、その口調は急に柔らかくなる。しかし、言つていることのほとんどがよくのみ込めない。誰に頼まれたのか。警察が何を頼むのか。そうか！ 警察ではないのか！ ぼくと何を話しあおうというのか。犯罪者にどんな註釈がいるのか。そうか！ ぼくは殺人犯ではないのか！

だとしたら、何故こんなことをされなければならないのか。ぼくの何が、誰に対しつけないのか。考えはじめるとますますわからなくなつてくる。たまらなく自分に腹がたつてくる。わけもわからず、何故つかまつてしまつたのかと。

何かを言わなければならぬと思う。が、口元に力が湧いてこない。口の中は重く、疲れきつていて。舌の先に手拭の糸屑がくつづいている。それを吐き捨てようとするが思うようにいかない。しみ込んだ臭いまで吐くことはできない。そして、なによりも、肝心の言葉を忘れてしまつている。どこをどう動かせば喋ることができるのか思いだせない。

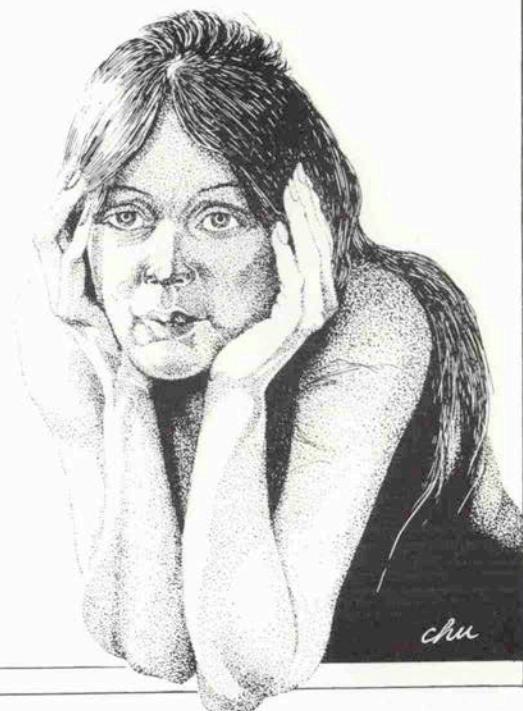
「こんなことをするのも皆が仲良く、しあわせであつてほしいと願うからだ。そうでも思わないさ、こんなことやつてられないよ」ボスは喋ることをやめない。これまでの暴力を一生懸命弁解しているように聞こえる。どんな理由づけをされても今更許すわけにはいかない。しかし、喋つてもうことはありがたい。ボスの言葉の一つ一つをたぐり寄せながら、ぼくは考へつづける。

ぼくは今まで充分しあわせである。結構妻とも仲良くやっている。時々、一緒にいることが恐ろしくなつてくるが、そのうち、きつと馴れるだろう。皆、そんなに明確に何もかもわかつて暮らしているわけでもあるまい。わからないから、妻という都合のいい他人をそばにおいて、わからうとしているのかもしれない。と、そんなことを思つてゐるうちに、さるぐつわが解かれた口のどこか一部、多分治療済みの虫歯の奥あたりで、自由が戻ってきたことをようやく感じはじめたようである。束縛から解放されるとその部分でやたら騒ぎたくなるものらしい。

「こんなことをして、このままですむと思うのか？」自

分では高飛車に強気に言つたつもりだが、どうしたことか、感情そのままに声は出ない。言葉は口の中ですでにつぶれ粉々になる。鉄粉入りの菓子を食べているようである。甘くもなくうまくもない。ただ口腔のあらゆる部分にぶつかり突き刺さる。自分の声までがぼくを脅迫する。おまけに喉は乾燥剤のつぶつぶを放り込まれたようになに渴ききつてゐる。今は唾も湧いてこない。声を出すと体中針だらけのミミズが喉の奥から這い出してくる感じであるしかし、ぼくは喋る。黙つていると損をしたような気がする。

「君たちはますますつもりかもしれないが、それはさせない。今後の出方によつては大きな問題にしてやる」三四



ほどの針ミミズが鼻の裏側まで這いあがつてくる。

「すむかすまないか、あんた次第だ」一転してバスの声

が凄む。「それはどういう意味だ？」「ぼくが何をしたというのだ？」冗談にしてはひどすぎるぞ」バスの凄みに負けずに喋る。が、声は相変わらず自分に戻ってくる。一旦は外に出ていくが、すぐ、耳のつけ根あたりに吸いとられる。気がつくと腹に沈殿している。自分の声や言葉を感じることは妙に恐ろしい。全然知らない誰かがぼくの中にいるようである。

「詳しい事情は知らないが、ともかく一度は奥さんのものへ帰つてあげなきや。話はそれからだ。別れるにしてやりなおすにしても、よく話しあつてからでないとお互いが不幸だよ。このままでは奥さんが氣の毒すぎる」ボスの口調がまたやさしくなる。ぼくの肩を抱き、指先に力を入れる。

「奥さん？……その言葉につまずく。妻のことかと考える。当然のことである。まさか隣の奥さんではないだろう。奥さんのもとへ帰る？……ぼくはいつも帰っている今も帰る途中である。たまたま今日は遅くなつたが、一日だって帰らなかつた日はない。他にどこへ行くというのか。そんなに親切にぼくを迎い入れてくれるような場所がどこにあるのか。そうか！人違いか！やはり。

「君たちの言つていることはよくわからない。氣の毒だが人違いのようだ。君たちに言われなくともぼくはいつも妻のところへ戻つてゐる。帰つてくるなど言われても帰るだろう。今もその途中だ。君たちにこんなことをされなければとつに着いていた頃だ。今頃はあいつも心配して、その辺まで迎えに来ているかもしれない。妙な誤解でもしてもらつたら君たちの責任だよ。災難だと思つてあきらめるが、迷惑だよ。まったく舌の上で言葉を確かめながら喋る。感覚が戻つてきたようである。人違ひだからといってこのまま泣き寝入りするはどうにも虫がおさまらない。文句の一つも言つておいてやろう。

「本来なら、その奥さんに頭の一つも下げてもらうとこ

ろだが、まあ、そこまですることもないだろう。わかつても覚えさえすればいいのだから」

「それがあんたの手だつて。いつものらりくらりとうまいことを言いながらなくなつてしまつて。そういう言葉にはくれぐれもたまされないでくれと奥さんに念を押されている。ほんとうにもつともらしいことを言うよ。でも我々には通用しない。それより黙つて帰つた方があんたのためだ。奥さんが言つてたよ、帰つてきてくれさえすれば今までのことは忘れるつて。なかなか言えないことだよ。いい女じやないか。うらやましい限りだ。あんないい奥さんを捨てて、今までどこへ行つていたのかね。他に女でもできたのか？」

「やめろ！許さんぞ。ぼくたちはりっぱな夫婦だ。ぼくのために食事を作り、裸にだつてなる。笑いたいと言つてはダダをこね、泣きたいと言つては甘えてくる。彼女の全てがぼくのためにできている。君たちがどんなに頼んでもあいつは決して抱かれないと。食事の用意もしないし風呂も洗かさない。一緒にいることさえしないだろう。しかし、彼女はぼくの横でいつも眠つている。手を伸ばせばすぐのところにいる。あいつはぼくの妻だ」「裸になら売春婦だつてなるさ。情のあるパンパンなら食事だつて作るし、風呂だつて一緒に入つてくれるよ。一緒に死んでほしいと言われたこともあるよ」

「失礼にもほどがあるぞ。妻を売春婦にするつもりか。今日だって帰りが遅くなることは言つて出かけた。妻も承知のことだ。君たちにとやかく言われる筋合はない。とにかくぼくを帰してもらおう。そうすればわかることだ」「だから、今帰るところなんです。あんたさえこのまま帰つてくれたなら、それで皆がうまくいくんです」

「そうだ、帰れば全てがわかることだ。しかし、どこへ帰るのか。ぼくの家ならとつに着いているはずである。わざわざ車に乗るなどのことはない。県道沿いの道を十分ほど歩けばいい。やはり何かのまちがいだ。人違ひのようだ。

(つづく)

★神戸っ子トラベルコーナー

★世界の豪華客船 グラインエリザベスII 優雅な旅
船室 ファーストクラス 10室 (ツインベッド、バス付)

料金コース￥

日程 / 3月15日 - 3月21日

費用 / ￥4,400,000

大阪 ⇔ (航空機) → 香港 → (QE)

→ 神戸 → 横浜

→ ハワイ → 西海岸コース

日程 / 3月22日 - 4月5日

費用 / ￥9,200,000

横浜 → (QE II) → ホノルル → サンフランシスコ → ロサンゼルス

→ (航空機) → 大阪

★ヨーロッパ・デラックスクスツアーブロカーメラマン宮下浩とともに

ミラノではドウオーネ広場、ヴィットリオ・エマヌエレ回廊、中世の市バビアなどを観光。またモンブラン・ハビヅン(《金糞村》)カルチャ・ラタンなど見どころが

可愛い店とか、何だからともかくす
てきな街ですね。

あと2年間の関西暮らし(留年
しなければ……なのだが)せいぜい
神戸の街の探索をしようとはりき
っている。これからいろいろな穴場の紹介を期待しています

★「神戸」で生まれ育てられて十
六年。『都市三代滅亡論』という
都会で二代すごせばその一族は滅
亡するという説も、「神戸っ子」
を読んで「神戸」について見直し
てみるとその説はあるはずもない
ように思われる。山・海があり都
市とは思えないような自然環境。
まさに貿易都市神戸、ファッショ
ン都市神戸、日本を代表する美しい
神戸の人間は、大阪とは違うんだ
だ。というプライドがあるみに食
ですね。でも、そのプライドに負け
ないくらいのすてきな街だと思います
います。坂道とか小さな道ぞいの
神戸の神戸(コウブ)日記

talk and talk



<神戸っ子愛読者サロン>



カラカラ大浴場跡

いっぱいのツアードです。

日程 / 3月17日 - 7月1日

費用 / ￥5,940,000

大阪 ⇔ 東京 → パリ → ミラノ → ナボリ → カブリ島 → イスカヤ島 → カブリ島 → ナボリ → ローマ → シュネーブ → リヨン → パリ → 東京

大坂お問合せ、お申込はドックウェルトラベルサービス神戸(舞合区磯上通8-3-7 明治生命ビル)

担当(鳥村) 03-5110-021

★ハワイ修学旅行28日間セミナーで英会話をマスターして

可愛い店とか、何だからともかくす
てきな街ですね。

あと2年間の関西暮らし(留年
しなければ……なのだが)せいぜい
神戸の街の探索をしようとはりき
っている。これからいろいろな穴場の紹介を期待しています

★「神戸」で生まれ育てられて十
六年。『都市三代滅亡論』という
都会で二代すごせばその一族は滅
亡するという説も、「神戸っ子」
を読んで「神戸」について見直し
てみるとその説はあるはずもない
ように思われる。山・海があり都
市とは思えないような自然環境。
まさに貿易都市神戸、ファッショ
ン都市神戸、日本を代表する美しい
神戸の人間は、大阪とは違うんだ
だ。というプライドがあるみに食
ですね。でも、そのプライドに負け
ないくらいのすてきな街だと思います
います。坂道とか小さな道ぞいの
神戸の神戸(コウブ)日記

フリータイムはあなたのプランで
現代アメリカのアートドアライフ
を満喫して下さい。

日程 / 2月26日 - 3月24日

費用 / ￥2,980,000

大阪 ⇔ ホノルル(滞在) → 大阪

★シンガポール・バンコク5日間

まぶしい緑の中に白い建物が並んで
いる英國風な清潔な庭園都市シ

ンガポール、そして仏教文化と南

国的情緒が混ざりて調和した美し

い街バンコク。アジアの個性を対

照する2都市周遊の旅です。

セミナーで英会話をマスターして

可愛い店とか、何だからともかくす
てきな街ですね。

あと2年間の関西暮らし(留年
しなければ……なのだが)せいぜい
神戸の街の探索をしようとはりき
っている。これからいろいろな穴場の紹介を期待しています

★「神戸」で生まれ育てられて十
六年。『都市三代滅亡論』という
都会で二代すごせばその一族は滅
亡するという説も、「神戸っ子」
を読んで「神戸」について見直し
てみるとその説はあるはずもない
ように思われる。山・海があり都
市とは思えないような自然環境。
まさに貿易都市神戸、ファッショ
ン都市神戸、日本を代表する美しい
神戸の人間は、大阪とは違うんだ
だ。というプライドがあるみに食
ですね。でも、そのプライドに負け
ないくらいのすてきな街だと思います
います。坂道とか小さな道ぞいの
神戸の神戸(コウブ)日記

フリータイムはあなたのプランで
現代アメリカのアートドアライフ
を満喫して下さい。

日程 / 2月26日 - 3月24日

費用 / ￥3,980,000

お問合せ、お申込は国際トラベル

(舞合区御幸通8-1-1-6、国際

会館2階) 03-511-8186

★サーフィンとスキュー・バダイビ

ングの旅4日間

真冬の日本を脱出して、紺碧の南太

洋ゲーリムにてサーフィンとダイ

ビングをしよう。

日程 / 3月4日 - 3月7日

費用 / ￥8,800,000

大阪 ⇔ グアム島 ⇔ 大阪

お問合せ、お申込はオーシャングルー

ブ友公司(生田区江戸町95、ウシ

オビル内) 03-911-3124



ローズ・ガーデン

日程 / 3月18日 - 3月22日

神戸回教寺院との出会い

12月 74年3月29日

二人のサウジアラビア人と西

宮の女子大学生とモスク難航公

園へ行った。

4月 74年9月9日

モスクで20人位のバキスタン

人の集団と対面、船まで招待

された。

11月 75年5月16日 - 18日

ベル(スウェーデン人の友達)

の家でタコあげやつん。

夕食をともにする。

メリケン波止場に併んだ時、人



(雪のチューリッヒにて)



青い海でサーフィン

れど頑張らなかん、と思いまし

た。そして、いつまでも神戸を愛

し、「神戸っ子」と友達でありた

い。

★ユニークな「神戸っ子」の

みなさま、バタヤン、編集長、ミ

コちゃんお元気ですか。

今、スイスのチューリッヒの町

です。静かな夜、雪が降る湖の中

には元気な白鳥が――。

オビル内) 03-911-3124

費用 / ￥1,700,000

大阪 ⇔ 香港 ⇔ バンコク ⇔ シンガポール

★ボストンマランソンとロスアンゼルス・ハワイの旅9日間

日程 / 4月14日 - 4月22日

費用 / ￥3,980,000

お問合せ、お申込は国際トラベル

(舞合区御幸通8-1-1-6、国際

会館2階) 03-511-8186

★サーフィンとスキュー・バダイビ

ングの旅4日間

真冬の日本を脱出して、紺碧の南太

洋ゲーリムにてサーフィンとダイ

ビングをしよう。

日程 / 3月4日 - 3月7日

費用 / ￥8,800,000

大阪 ⇔ グアム島 ⇔ 大阪

お問合せ、お申込はオーシャングルー

ブ友公司(生田区江戸町95、ウシ

オビル内) 03-911-3124

費用 / ￥1,700,000

大阪 ⇔ 香港 ⇔ バンコク ⇔ シンガポール

★ボストンマランソンとロスアンゼルス・ハワイの旅9日間

日程 / 4月14日 - 4月22日

費用 / ￥3,980,000

bal'On
collection
series
〈56〉 タバコ

大村 幸一さん

〈K.K. セントジョージ・ジャパン専務取締役
神戸元町ライオンズクラブ幹事〉

いつもブカブカブカ……なんて専売公社推薦みたいな喫がありましたね「それほどヘビースモーカーでもないけど、外国ではカフェテラスでタバコを売ってるのに、色やデザインが素敵なのを集めてるんです」と大村専務。なるほどパッケージの大きさもさまざままでそれぞれのお国ぶりがよく出ていて、並べてみるとだけで楽しい。特に大きな箱はロシアでも手に入りにくい珍しいタバコ、挽き立てのコーヒーを飲みながら格別の一服。

センター街店にて
カメラ/米田定蔵



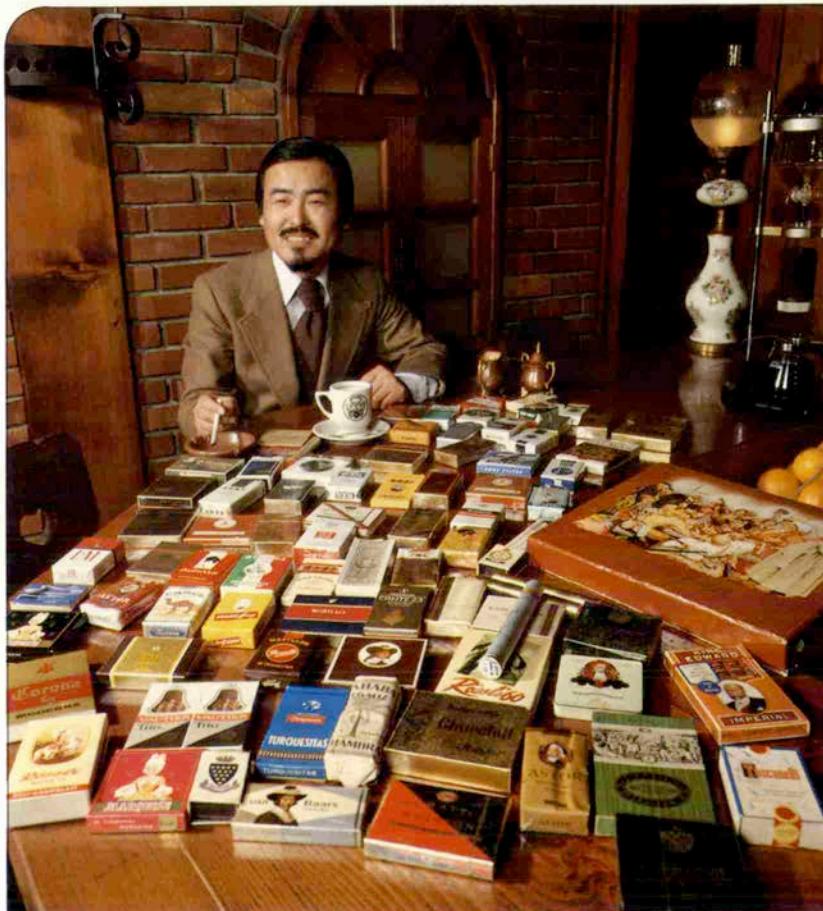
バ'ロン

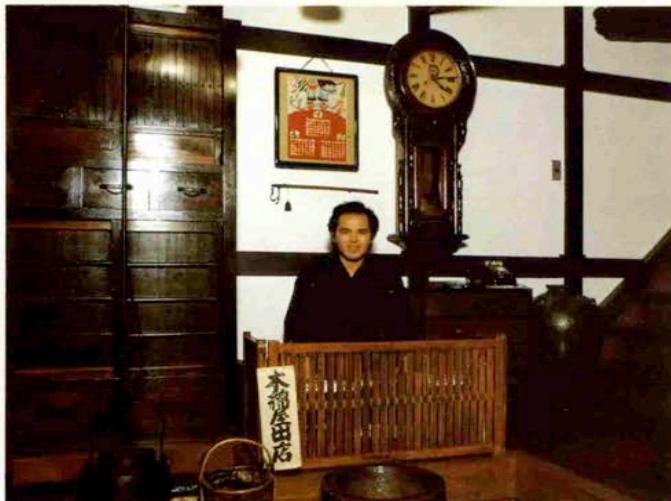
★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ 神戸亭 三宮センタープラザ店
TEL 332-6361 AM10:00~PM9:00迄





五事裏廻園

神戸市生田区元町3丁目46番地
電話(078)391-3156

この度神戸で二百年来の風雪に耐えた江戸時代の曲絶ある豪農の民家の古材を使つて炭焼ステーキのお食事処を建てました。二メートルに及ぶ積雪にも搖るがながた太い垂木合掌造りの屋根裏のすゝ竹、そして古丹波の壺と徳久利・古伊万里等は諸口等々、自在釣のある圍爐裏端でにほんの古い良きを充分に味わつていただきたく願っております。

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭
箕面区旗塚通7-5 ☎ 231-6300
トアロード店 ☎ 391-2538
兵庫駅前店 ☎ 575-5306

北海道郷土料理 蝦夷
生田区中山手通1-115東門筋東門会館ビル1階 ☎ 331-7770

和食くれない
三宮生田新道浜派中央KCBビル2F ☎ 331-0494

鍋もの・おむすび
お茶漬・炉ばた
悟味西
生田区北長狭通1-20 ☎ 331-3848
三宮さんちかタウン ☎ 391-5319

たこ焼
たちばな
三宮センター街(旧柳筋) ☎ 331-0572

とうふ料理 東府家
生田区北野町3-53 ☎ 221-1148

お茶漬・おむすび
鍋もの
ふる里
生田区北長狭通2-1 ☎ 331-5535

かつばう吉
生田区加納町3-95-1(ニュージャパン別館前) ☎ 241-3450

御食事処鳥光
須磨本店 ☎ 731-5855 センターブラザ店 ☎ 331-6948
さんブラザ店 ☎ 391-3696 三宮東門店 ☎ 331-4043

新和食処あじびる
阪急三宮駅山側 ☎ 332-3456

★西洋料理

レストラン アボロン
箕面区八幡通5-6 ☎ 251-3231

レストラン 鹿皮〈あらかわ〉
生田区中山手2-9 ☎ 221-8547・231-3315

ピザ&スパゲティ ガルの店
箕面区琴緒町5-1-7 西山ビル1F ☎ 241-9025

ステーキハウス グリル青山
生田区中山手通2-112-2(トアロード) ☎ 391-4858

レストラン クィーンズコート
生田区山本通2丁目31 ☎ 242-2469

ステーキ&
ドリンクス 神戸館
生田区下山手通2-29-3 アマツビル1F ☎ 321-2955

スカンディナビア料理 ゴックスタッド
と世界の民族音楽の店
生田区山本通3-18 回教寺院前 ☎ 242-0131

GALLERY &
STEAK HOUSE SAN-MON三門
生田区中山手通2丁目98-99 ☎ 331-5817

Café et Restaurant アンドウトワ
生田神社西 伊藤ビル1F ☎ 391-8639

レストラン スイスシャレー
生田区北野町3-48アニールドマンション1F ☎ 221-4343

レストラン セントジョージ
生田区北野町1-130 ☎ 242-1234

レストラン 男爵
生田区中山手1-18
山手第一ビル1F ☎ 241-0778

メキシコ小料理亭 ティファーナ
生田区中山手通1丁目4-12 バールコボラスピル1F ☎ 242-0043

Restaurant & Lounge ボナペチ
生田区北野町3-49 BKラザ1F ☎ 222-5300

ピザ・パブ ピザ・パテオ
生田区元町通1-49(元町1番街) ☎ 331-9378

フランス料理 ビストロドウリヨン
生田区山本通2-40-1 ☎ 221-2727

ピッツアハウス ピノッキオ
生田区中山手通2-101 ☎ 331-3545

maison de la mode 花屋敷
三宮フラワーロード市役所前 ☎ 251-0315

ボリネシア料理 海賊焼
フイッシャーマンズポート
神戸港第4突堤ポートターミナル ☎ 331-0301

レストラン フック東店
生田区栄町1-5-3 ☎ 321-3207

レストラン ムーンライト
三宮・生田新道 ☎ 331-9554

グリル・鉄板焼 月
生田区山本通2-111 キングスコート内 ☎ 242-7090

レストラン 元町フルーツホール
元町1番街 ☎ 331-1987

ステーキハウス れんが亭
生田区下山手通2-34 ☎ 331-7168

BARBECUE & STEAK 六段
生田区元町通3 ☎ 331-2108

居酒屋 クラブ
アラメンコショー 口ス・ヒタノス
生田区下山手通3丁目22
下山手セントラルハイツ ☎ 391-5431

レストラン フック神戸店
生田区栄町2-24 ☎ 321-3453

炭焼ステーキ 凱旋門
生田区下山手通2丁目6 新道ビル1F ☎ 321-3378

★洋食

ドイツレストラン ハイデルベルク
生田区山本通2丁目 ローズガーデン2F ☎ 222-1424

ボロニア風 生ハムの店
神戸三宮さんプラザB1F ☎ 391-5206

ブルクロード料理
スパイスレストラン
ぶらは生田区中山手通1丁目19 クラン山手B1 ☎ 241-7017

★喫茶
コーヒーラウンジ
生田区三宮町3丁目2-11 ☎ 331-1117

ティー&スナック
工ポート
生田区元町通3(浜側) ☎ 331-3694

喫茶
ガーデニア
生田区東町113-1 大神ビル1F ☎ 331-5114

宮水のコーヒー
にしむら珈琲店
中山手店 生田区中山手通1-70

センター街店 生田区三宮町2-35 ☎ 391-0669

北野店・山本通2-9 242-2467
(会員制) 3F事務所 ☎ 242-1880

ピアノホール
バックステージ
生田区三宮町1サンプラザ10F サンロイヤル ☎ 332-0230

珈琲モーツアルト
生田区山本通2-98グランドマンション1F ☎ 241-3961

ファッショナブル
キングスコート
ティーラウンジ ベントハウス
生田区山本通2-111 キングスコート内 ☎ 242-7090

珈琲
生田区三宮町2丁目25(トアロード) ☎ 391-1589

★club
club 飛鳥
生田区中山手通1-117 ☎ 331-7627

club 小万
生田区東門筋中島ビル3F ☎ 391-0638・4386

club さち
生田区中山手通2-75 ☎ 331-7120

クラブ 千
生田区下山手通2-21 ☎ 391-1077

club なぎさ
生田区北長狭通2-1 ☎ 331-8626

クラブ るふらん
生田区北長狭通1-111-11 ☎ 331-2854

club Moonlight
BAR ☎ 331-0886・391-2696

Club ☎ 331-0157

★STAND & SNACK

PUB & RESTAURANT アップランド
生田区加納町3-1-34 ☎ 241-8271

サロンドアルバトロス
生田区中山手通1-24-7
大和ナイトブラザ2F ☎ 331-3300

DRINK IS AN ART OF LIFE ウッドハウス
生田区下山手通1-32 ☎ 241-7320

ブチシャンソン
音楽の家: ETエトワTOI
生田区三宮町3-1 スカイターピル3F
神戸アロード三宮センター街西入口 ☎ 332-1755

純会員制 エドワーズ俱楽部
生田区北長狭通1-28
ホワイトローズビル5・6F 生田新道
391-3300

SNACK LGM
生田区北長狭通1-25 生田新道ビルB1
321-3070

ナイトイン おしゃれ貴族
生田区中山手通1-24-7
大和ナイトブラザB1 ☎ 242-1925

スナック 蘭の花
生田区中山手通2丁目30-1
東門ダイワナイトブラザ5F ☎ 391-4455

スタンドかてな
生田区中山手通1-90 英健ビル1F
331-1316

キヤンティ
本店洋酒の店
生田区北長狭通2-3
391-3060・391-3010

北店スープとパンの店
生田区下山手通3-8-9
331-3661

スタンドグラムール
生田筋岸ビル地階
331-4637

スタンドくろ実
生田区中山手通1-72
331-6985

サロンド神戸時代
生田区中山手通1-28
モンシャトウコトキビル
242-3567

カクテルラウンジ
サヴォイ
高架山側 テキの店北
331-2615

スナック 山莊
生田区北長狭通1-22
391-5823

music spot サントノーレ
トアロード店 生田区下山手通2丁・コード
391-3822

北野店 生田区中山手通1-24-7
ダイワナイトブラザ6F
221-3886

スナックレオバルド
生田区中山手通2丁目30-1
東門ダイワナイトブラザ6F
391-0992

DRINK SNACK
スネカリツ子
生田区下山手通2 水堀ビルB1
391-8708

珍地理屋
生田区中山手通1-24-7
大和ナイトブラザ1F
242-0288

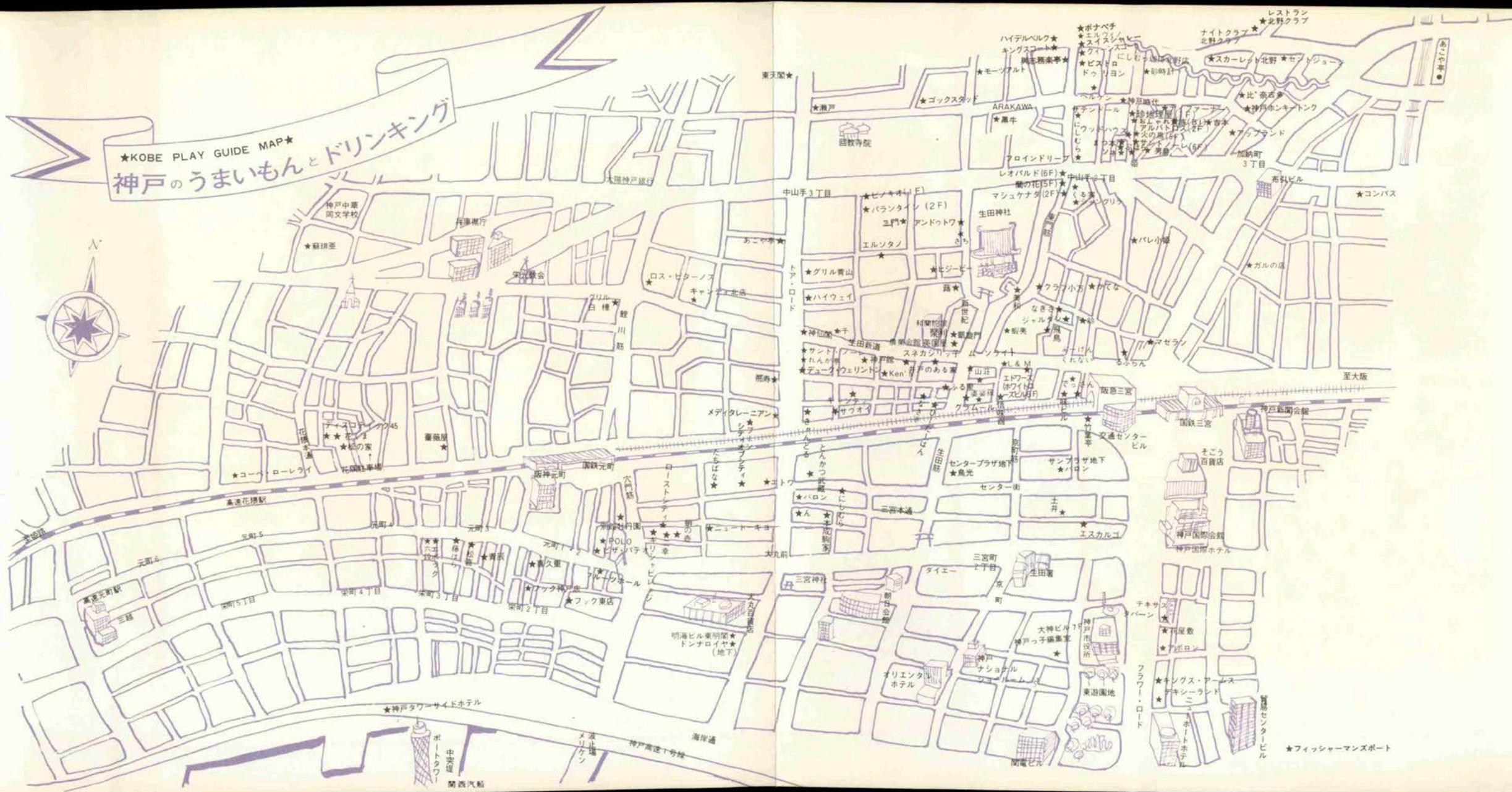
素舌洞でつさん
生田区北長狭通1-258
331-6778

スナック ピジーピー
生田区中山手2
391-4582

STAND マシユケナダ
生田区中山手通2-30-1 東門大和ナイトブラザ2F
331-5587

サロンド小姫
生田区加納町4丁目神三ビル2F
332-1098

SNACK シャングリラ
生田区中山手通1 マリンビル1F
391-8941
グランプリ・中山手通1 ニュー友蔵ビル2F
391-4406



新張之喜

あの《群愛飯店》が山手にオープンしました。



● 広東菜館

群愛飯店

群愛有限公司
施 昊 昌

神戸市生田区中山手通3丁目65
エコノ山手プラザ1F ☎ 078(332)5203



建築は風景
お店は商いの顔

寺崎建設株式会社

INTERNITERASA CO., LTD.

神戸市葺合区国香通2丁目3番8号
(国香第1ビル)電話(078)242-2233(代)
(建築内装工事のことならおまかせください。担当 / 中島、福田)

協力業社

大光電機株式会社
☎ (06)972-5551

株式会社

五島電気商会
☎ (078)575-6806

株式会社
川西管工業
☎ (078)881-0433
千田厨房設備
☎ (078)632-5851



ひとりきわ優雅に彩る神戸の夜



GRILL & BAR

なぎさ

神戸市生田区中山手通1-111

☎ (078) 331-3670



CLUB

なぎさ

神戸市生田区北長狭通2-1

☎ (078) 331-8626



CLUB

エターナル

神戸市生田区下山手通1-5

ゼウスタウンビル6F

☎ (078) 391-5838

演奏：芦田清カルテット

神戸の酒徒が今宵も出会う——クラブ小万



club
Komatsu

小万 岩本 起代子

神戸市生田区中山手通1丁目114-1(東門筋)中島ビル3F

☎ 391-0638・4386





クラシカルモダンな店内に輝く酒の香り。豊かな会話と
寛ぎのひととき。夢を追っかけるあなたのホームバー。

WINE & RESTAURANT

酒夢猫

生田区中山手通1 神戸酒販ビル2F

☎ 332-3308 第1、3日曜休



ヴィヴィッドに、ワイルドに、生きて、飲むために。黒と白の根源的なデザイン空間が、あなたを原始の世界へ



生田区中山手通1 日の出ビル2F

☎ 332-4732



あなたもティファーナで楽しいパーティはいかが? ロス
ティファーナの歌声がいっそう盛り上げることでしょう

メキシコ料理の店

TIJUANA

生田区中山手通1 ☎ 242-0043 無休



いつものようにいつものお酒。だけど何だか今夜はちがった気分。そんなラベコンスタンタンの夜をあなたに。



SNACK & NIGHT SPOT

ラベコヌスタンタン

生田区中山手通1 マリンビル地下
☎ 332-1019 PM 7~AM 1 日曜休(祭日は営業)

T O M B E L A N E I G E

Tome la neige tu ne viendras pas ce soir
Tombe la neige et mon coeur s'habille de noir

LE SOIR A KOBE

Ce soyewx cortage. Tout en larmes blanches
L'oise du sur la branche. Pleure la sortilège.



.....会話に揺れて



LEOPARD
レオバルド

生田区中山手通2 東門ダイワナイトプラザ6F
☎ 391-0992・2125 第1,3日曜休



バレンタイン・デーに語り合うあなたと私の暖かさをバックステージで。まるで二月の風をふきとばすかのよう

Piano Hall
BACKSTAGE

生田区三宮町1 さんプラザ10F サンロイヤル
☎ 332-0230 第1、3月曜休
Coffee Time 11:00~6:00 whisky Time 6:00~12:00



ドイツの雰囲気・本場のドイツ料理・ドイツビール
ドイツワイン・アコーディオン生演奏

Heidelberg

ハイデルベルク
生田区山本通2丁目 ローズガーデン2F
☎ 222-1424 水曜休



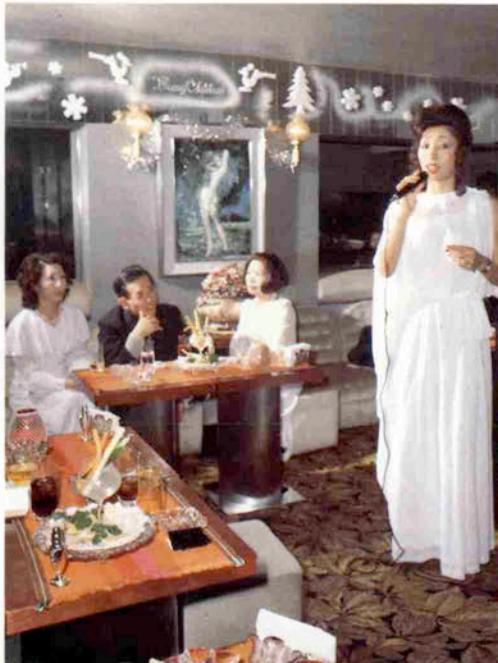
フォンデュー独特的のしつこい味を、全く日本的な味に変えました。3月までの期間中、ワイン飲み放題。予約要



Lounge
羅針盤
COMPASS

芦合区二ノ宮町3 大西ビル(海皇)2F
☎ 242-1236 無休

ハイセンスなあなたの社交場……



6:00PM~9:00PMの間は30名様までの貸切りパーティを承っています。ご予算に合わせて用意させていただきます。

●毎夜 8:30PM~O:30AM
鍋島直迪のピアノによるミュージックタイム
ムードミュージックからスタンダードジャズなど豊富なレパートリーは雰囲気を一段と盛りあげます。また、歌のお好きな方にはステキな伴奏を致します。



Pale 小姐
Kohinze 梅沢 和子

神戸市生田区加納町4丁目
神三ビル2F
TEL (078) 332-1098
6:00PM~1:00AM 日曜祭日休み
姉妹店 / スナック美和 ☎ 391-3050
バレ小姐では
ハイセンスな女性を募集しています



Saydo

Join People

生田区山本通 2-67-1

北野アレイ

☎ 222-2678

60余種もあるスパゲッティのウォリュームと味に北野界かいの外人に
も人気。 ロバートブラウン / キープ 4000・100バイバーズ / キープ
5000・水割 500・マイブロイ 400 11:00AM~11:00PM 無休



SNACK ペペ

兵庫区本町 1-1-19

松尾ビル 1F

☎ 671-9003

とっても気楽で愉快な店。庶民的で暖かい感じが何よりうれしい。
ロバートブラウン / キープ 4500・水割 400・キリンビール(小) 400
3:00PM~12:00PM 無休

Night in February



SNACK

あすなろ

生田区中山手通1-110-10

ゴールデン会館東側地下

☎ 331-2008

人と会話と家庭的なムードで、飲んで歌っての楽しいひとときを。
ロバートブラウン / キープ 6000・水割 400・キリンビール(小) 400
5:30PM~12:00PM 無休



SNACK

ゆきどまり

生田区中山手通1-110-10

ゴールデン会館東側1F

☎ 332-0003

きさくなママと話しがはずみ、店内いっぱいに楽しい笑い声が響く氣
楽な店。 ロバートブラウン / キープ 6500・水割 500・キリンビ
ール(小) 500 5:30PM~12:00PM 日曜休



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32
WOODHOUSE 山内ビル
☎ 241-7320・7983



CHISATO

生田・東門筋
東新ビル地階
☎ 331-4730

KOBE EATING & DRINKING GUIDE

JAZZ CLUB
SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57
富士産業ビル1F
☎ 242-0100



UPLANDS

生田区加納町3丁目
1-34
☎ 241-8271



ウッドハウス今月のお客さま

右から藤田光雄さん

藤田静江さん

藤田敦君

藤田薰さんの和やか ファミリー

藤田さんは「ピザハウスF」のマスター。今日は店がお休みなので家族そろって「ウッドハウス」で一家団らんのひとときを楽しめています。みなさん「ウッドハウス」の大ファンです。

☆ビール(小)¥400 水割(OLD)¥500 おつまみ¥200 スパゲッティ、ピラフ各¥500 キーパG&G¥6,000 レギュラースコッチ¥7,000
平日5:00PM~4:30AM 日曜5:00PM~0:00AM 第1・第3月曜休み

ウッドハウス



3月9日 アート・ペッパーカルテットが来店 予約制

☆若いスタッフが熱っぽく働く姿に誘われ、ついいつ飲みすぎがち。そして流れるジャズに身体を揺らせながらはずむ会話。活気ある「サテンドール」をのぞいてみれば、いつのまにかあなたも仲間。そんなサテンドールでは、時折グストが来店します。去和の暮、12月7日、ボーカルの後藤芳子さんが来演し、ピアノ・辛島文雄、ベース・水橋孝をバックに、キュートな彼女の魅力を楽しみました。

ハウストリオ (月~土) (渡辺健蔵(b)近秀樹(p)岩本龍夫(ds))

毎週月曜日 / ハウストリオ+吉井篤子(vo)

毎週水曜日 / ハウストリオ+ロミ伊藤(vo)

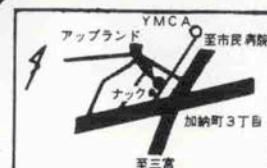
毎週日曜日 / 森宏トリオ、田代泰之トリオ、池田裕志トリオ、西山満トリオら関西のジャズメンの演奏。

☆ビール¥400 水割¥400 ピラフ¥400 サテンドール風スパゲッティ¥600 チキンバスクケット¥700 エスカルゴ¥1,000
6:00PM~4:00AM 無休

KOBE EATING & DRINKING GUIDE

サテンドール

チサト



☆あれは、冬の始めだった北野坂のあたりで、黒いシッポの犬が、なぜか人恋しそうに私を見上げた/私は、コートの襟を立てた/さっき別れた女のうらみっぽい眼が……今も背後から私をみつめているような、そんな気がして、振り返ると、ただ、白い風が渦巻くのみ……(ここで主題歌が入る)なんて、ひとりでいきがってないで、冬の夜は「アップランド」でみんなと一緒に楽しくやりませんか? (続き)見上げる男の眼に、北風にクルクル舞う風見鶲が、淋しく映った/ああ、オレもひとりか……。「ねえ、待った!何をボンヤリと空を見てるの」デートの相手が現われた男は嬉々として「アップランド」のドアを押したのだ。(エンドマーク)

☆生ビールを始めました。大ジョッキ¥600 小ジョッキ¥400

☆ボーグーセーゼ¥900 シェバーズパイ¥1,000 ステーキ&キドニイパイ¥1,000 フィッシュ&チップス¥750 コーニッシュバースティ¥800 ブロス(ウェールズ風シチュー)¥900 ヘラステーキ¥2,800 J&B, G&G, OLD 各¥500 ビール¥500 フィズ¥600
5:00PM~3:00AM 日曜祭日6:00PM~3:00AM 無休